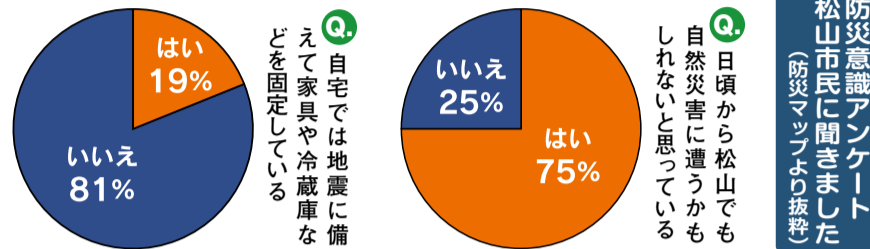


大地震に備えて

死者の8割以上が圧死

阪神・淡路大震災では、建物の倒壊や家具の下敷きによる死者が全死者の8割以上でした(警察庁「警察白書」(平成7年版))。このことから建物の耐震化や、家具・家電の固定が、減災の大きなポイントであることがわかります。それにもかかわらず本市においてはアンケート(平成22年度実施)から、危機感の薄い市民が非常に多いという結果になっています。災害は突然やってきます。できる対策を今、とりましょう。



「もしも」に備えて今、できる対策を

耐震診断費用を補助

本市の木造住宅の耐震化率は約70%(全国平均80%)。約4万戸が倒壊の恐れのある家です。耐震診断料は図面がそろっていると3.5~4万円程度。市では昭和56年5月31日以前に着工された1戸建て木造住宅を対象に「耐震診断費用補助事業」を行っています。経費の3分の2以内(上限2万円)の補助があり、年間100件を募集しています。
※詳細はお問い合わせください

お問い合わせは、建築指導課 ☎948-6509・☎934-0640へ

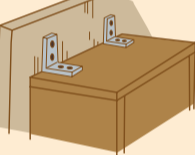
消防団員募集

大切な家族とふるさと松山を守る消防団員。あなたも、安全・安心を守る地域のヒーロー・ヒロインになりませんか?
【対象】市内に在住または通勤している18~45歳程度の健康な人
【活動内容】地域における火災等災害現場活動、火災予防啓発活動など

お問い合わせは、(消防総務課) ☎926-9229・☎926-9144へ

家具を固定

まずは寝室、居間、避難経路の家具を固定しましょう。家具や壁面、天井の強度にあった転倒防止器具を選び取り付けます。ガラスにはフィルムを貼るなど飛散防止をしましょう。賃貸住宅などで家具の固定ができない場合、家具の配置を考えましょう。家電製品の上に物を置いたり、本を重ねたりしたままも危険です。日頃から整理整頓を心掛けましょう。



「モバイル松山消防」に登録

市内を対象に震度4以上の地震や津波、火災情報などを携帯電話などに配信します。
【登録方法】
①登録用アドレスmpx.wagmap.jpに空メールを送信(2次元コードから送信可)②すぐに届く登録案内メールのURLにアクセス③利用規約を確認後「同意する」を押す④登録画面のパスワードを入力し、希望情報にチェックを入れ「確認」を押す⑤内容を確認し「登録」を押す⑥登録完了メールが届く(登録完了)

お問い合わせは、(消防通信指令課) ☎926-9103・☎926-9198へ

防災対策 今でしょ!

避難所では… 体験啓発ブース

民間企業などからの支援も 本市では災害に備え、民間企業と物資や飲料水の提供、防災啓発などの災害時応援協定を締結してまいります。また熊本市・横須賀市との間で相互応援協定を結んでいるほか、市医師会などと医療救護活動についての協定も結んでいます。

災害時の連絡方法 大きな災害が発生したとき、安否確認で被災地への電話が殺到すると、回線が混雑し、つながりにくくなります。そのような状況でも連絡をスムーズに行えるよう「災害用伝言ダイヤル(171)」や「災害用伝言板」などのサービスがあります。

AED 救命講習 身近な人の命を守るために、市民ぐるみの防災の取り組みの一端を担いたいと思われ、サポーターに志願しました。活動を通して、家具の固定の必要性など、防災意識が高くなりました。大地震が起きても臨機応変に助け合えるよう、準備しておきたいです。

炊き出し訓練 炊き出しなど助け合えることが大事だね。物資の確保・備蓄を 災害の規模によっては四国全体が孤立する恐れもあることから、被災地に救援物資が届くとされるまでの1週間分程度を目安に、水や缶詰など比較的賞味期限の長い物資を家庭でも備蓄しましょう。

9時20分 避難場所へ 近所の危険箇所を防災マップで確認しておこう。避難場所への道順をいくつか考えておくといいね。

防災マップで周辺の状況を確認 支所、各消防署にありで避難場所を確認しておきましょう。また実際に避難してみると、避難のイメージが具体的にになり、注意すべき点が見えてきます。

訓練を終えて… 防災家族会議 近所の危険箇所を防災マップで確認しておこう。避難場所への道順をいくつか考えておくといいね。万が一に備えて日頃から訓練を重ねておこう。防災マップで確認しておこう。避難場所への道順をいくつか考えておくといいね。

お問い合わせは、危機管理担当部長 ☎948-6794・☎934-1813へ

市総合防災訓練

北条地区で行われた市総合防災訓練には、地元住民・自主防災組織・関係機関など約1200人が参加しました。訓練は9時ごろ、四国沖の南海トラフを震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、市内で震度6強を観測、市内各地で人的被害および家屋被害が多数発生、大津波警報が発表されたとの想定で実施。参加者は相互に協力し、消火、救出救護、避難者の受け入れの応急対策を行いました。

市民ぐるみの防災を 市民ぐるみの防災の取り組みの一端を担いたいと思われ、サポーターに志願しました。活動を通して、家具の固定の必要性など、防災意識が高くなりました。大地震が起きても臨機応変に助け合えるよう、準備しておきたいです。

9時10分 避難中 近所の人も無事で良かった。手をしっかりと握って。避難所へ避難開始

隣近所で助け合う 地震発生直後は道路の破壊や建物の倒壊のため、消防車・救急車などの緊急車両はすぐには行けません。阪神・淡路大震災では、倒壊した建物などから救助された人の約95%が、自力または家族や隣人といった身近な人に救われました。家族や隣近所に声を掛け、助け合いましょう。

防災特集 地震調査研究推進本部(文部科学省内)によると、南海トラフ巨大地震の発生確率は、今後30年以内が60~70%、50年以内が90%程度以上となっています。また県の発表では、松山の最大震度は7と想定されています。近い将来起こりうる大地震に「自分だけは大丈夫」と思っていませんか?

その時、どうする? 市総合防災訓練 密着レポート 11月2日に北条地区で行われた市総合防災訓練に参加した松岡さん一家(北条市)は、どのように避難したのでしょうか。その様子を追いました。

9時3分 緊急速報メール受信 揺れが収まったら情報を集めます。自分の周りに何が起きたか、緊急速報(エリア)メール・テレビラジオ・防災行政無線インターネットなどで正確な情報を入力し、状況を確認します。

9時5分 避難開始 危険がなければその場にとどまりましょう。津波、火災の延焼、建物の倒壊などの恐れがある場合は、火元を確認し、近くの避難場所へ、慌てず急いで避難しましょう。津波のときは海から離れ、川の流れに対して直角に「より高い」場所へ避難します。

